

令和7年度 学びの充実あと押し事業 「探究ウィークから実現を目指す学びの改革」

実践内容



【探究的な学びの目指す姿】

昨年度の春を感じる空の下、生徒が一人一輪車で丸太を運んでいた。小学生時から友達とのトラブルが多かったが、特別支援学級の総合的な学習の時間では、薪割り活動に夢中で汗だくとなり取り組む姿があった。ある日、業者が校庭の木を伐採していると、「木をもらっていいですか？」と自ら業者の方へ尋ね、丸太を積んだ重い一輪車で真っ直ぐ作業場へ運ぶ姿があった。薪割り活動にのめり込む生徒の姿から、本校の探究的な学びの目指す姿を見た。

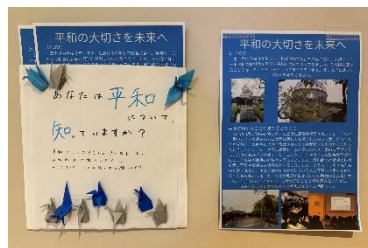
【「探究ウィーク」の創設】

- ・昨年度末の教育課程編成プロジェクト検討において「探究的な学び」を柱の1つとして検討し、午後の日課すべてを総合的な学習の時間とする「探究ウィーク」期間を2回設定し、個人探究をもとに総合的な学習の時間の活動を行うこととした。
- ・「探究ウィーク」の設置にかかわって、他の行事（文化祭一日開催、中間テスト削減、合唱祭12月開催等）の見直しを図った。



【生徒の学びの姿】

- ・生徒の興味から生まれる多彩な探究テーマ（ものづくり・食、スポーツ・技能、キャリア・職業、地域探究、社会・科学等）による学びの姿が見られた。
- ・「漫画、イラスト関係がテーマの仲間と松本国際高等学校へ行って漫画家さんに…」 「富士見町に興味をもってもらうためにクイズづくりや手作りグッズ販売…」 「観光スポットを調べて、実際に現地に行って…」 などのように自ら行動する学びの姿が見られた。
- ・「自分が知らなかったことや気づいたことがたくさんあって探究する時間がとても大切な時間になった」「探究ウィークが終わってからやりたいことが出てきて、来年の探究にしたい」「保育士をテーマに探究していったら助産師について興味がわいた」など探究の終わりは新たな問いの始まりとなる姿が見られた。



成果と課題

- 文化祭での総合的な学習の時間の発表が活動の終わりではなく、年間を通して探究のサイクルを意識した探究活動を行えた。また、新たな興味や問いを生むことにつながった。
- 学習を教師が与えるのではなく、教師が生徒の興味や関心に基づいた探究テーマをサポートしたり、活動や学びの実現に向けて生徒に寄り添って支援する姿が見られた。
- 新しい試みで考えながら実施するという状況で難しい面が多かった。また、生徒の願いの実現のために校外学習へ行く場合の安全面の確保が職員数との関係で難しかった。
- 探究テーマが決まらない、探究方法がわからない、停滞したまま活動が進まないなどの生徒たちへの支援のあり方についての課題が見えてきた。
- 次年度に向けて3年間の見通しをもったカリキュラムづくりを行っていく必要がある。